

アジア諸国の宇宙活動調査(韓国)

Research on Asian Space Activities (KOREA).

キーワード Key Word	宇宙開発、国際協力、ロケット、衛星、宇宙産業 space development, international cooperation, rocket, satellite, space industry
--------------------------	---

1. 調査の目的

1999年に開催された第3回国連宇宙会議において、途上国の裨益にも配慮しつつ、地域的及び地球的規模の重大な問題を効果的に解決するために宇宙技術の利用を促進するなどして宇宙の平和利用を進める方策が提言（ウィーン宣言）された。我が国としてもウィーン宣言の実施に積極的に貢献すべく、そのフォローアップの一環として、特に新興宇宙開発国の多いアジア諸国との協力を焦点を当てた施策を講ずることが適当である。

そこで、今後、アジア諸国との円滑な国際宇宙協力を推進するため、アジア諸国に関する宇宙活動の実状を十分に把握し、我が国関係省庁・機関がアジア諸国との協力を実施する際に、外務省より適切な助言が行えるよう、アジア諸国の宇宙開発制度、実態を調査した。

2. 調査研究成果概要

(1) 調査方法

国内外の最新文献、論文を収集・整理・分析するとともに、韓国における現地調査を実施した。

(2) 調査の内容

韓国はここ数年、欧州やロシア等との宇宙協力を促進しており、また、我が国に対しても宇宙航空研究開発機構の施設見学や国際宇宙ステーション計画における共同活動（日本実験棟利用、宇宙飛行士訓練等）の可能性の打診等を行ってきている。韓国との宇宙協力の可能性を検討するためにも、先方の実状を十分に把握する必要がある。そのため、韓国の宇宙活動に係わる以下の点について調査を行った。

- 韓国の宇宙活動（歴史、現状、将来の展望等）
- 韓国の宇宙開発体制（宇宙関連企業体、宇宙関連国家機関等の関係等）
- 韓国のアジアにおける国際宇宙協力の基本方針並びに現在及び今後の案件

韓国の宇宙活動

韓国が2000年12月に発表した「韓国宇宙開発基本長期計画」（改定版）では、宇宙センターの建設や2015年までに合計20機の衛星を打上げることなど、積極的な宇宙開発プログラムが盛り込まれた。現在はこの2000年の計画に基づいて事業が進められている。現在韓国は、コリアサット（通信衛星）、キットサット（実験衛星）、コムサット（多目的衛星）などの衛星シリーズを有するほか、KSR（観測ロケット）や、さらに高性能の次世代ロケット開発を進めている。長期計画では具体的な目標として2015年までに多目的衛星8基、科学衛星7基、静止衛星5基の計20基（改定前の計画では合計19機）の人口衛星の開発・打上げを目標に掲げているほか、2015年に1.5トン級の低軌道実用衛星打上げ技術を獲得するとしている。また、そのための推進戦略として、宇宙技術開発の総合調整機能の強化、産学官連携の強化、を挙げ、

国家科学技術委員会傘下の宇宙開発専門委員会の総合調整機能の強化や、韓国航空宇宙研究所（KARI）の育成、民間企業の宇宙事業への参画拡大などに取り組むとしている。この中で、長期的には米国の航空宇宙局（NASA）や日本の宇宙開発事業団（現宇宙航空研究開発機構）等のような国家宇宙開発総括研究機関の設立も詠われている。また、2005年を目処に韓国独自の宇宙センター（射場）を全羅南道高興郡の外羅老島に建設する計画である（図1参照）。宇宙センターが完成すると打上げ基地を所有する世界で13番目の国となる。



図1 韓国の宇宙センターのイメージ図

国際協力

国際協力の基本的な考え方として「国際協力事業への参加を通じた核心技術の確保」を掲げ、宇宙プログラム国際協力、地域別国際協力、の両面から技術習得に重点を置いた国際協力を推進するとしている。韓国政府は、国際宇宙ステーションへの韓国人宇宙飛行士の搭乗に意欲を示しており、飛行士の訓練をロシアで実施する計画を明らかにしている。具体的な搭乗実施については米国ほかパートナー国との調整もあり未定である。

その他、中韓関係（中国のアジア宇宙機関設立イニシアティブ等をめぐる韓国の対応など）、米韓関係、対欧州・ロシア関係などについて調査分析を行った。

今後の日韓宇宙協力の在り方

我が国との協力については、平成14年10月、東京において日韓科学技術協力協定に基づき第12回日韓科学技術協力委員会が開催され、宇宙技術や地球科学・環境などを含む幅広い分野で協力を促進していくことが確認されている。具体的には、「アジア太平洋宇宙機関会議」の第9回会合（APRSAR-9）が2003年3月に初めて韓国（大田）で開催されたほか、地球観測の分野で過去3回開催されている「日韓地球観測ワークショップ」などの協力プログラムが進められている。最近では、国際宇宙ステーションの日本モジュール「きぼう」利用で協力可能性が模索されるなど、新たな動きも見られる。しかし、日韓の宇宙分野におけるこれまでの協力関係は限定的なものであり、本格的な協力関係の構築に向けた道筋も描かれては入らない。韓国の宇宙開発計画を長期的な観点から見て、今後10年、20年という長期的な観点から東アジアの国際的な枠組みを視野に入れて協力関係を検討すべきである。宇宙という未来志向的視点から協力可能分野を探索し、実施していくことは、日韓関係の裾野を拡大し次世代の新しい日韓関係の構築にも貢献するものである。しかしながら経済面における協調と競争、安全保障面における協力と紛争防止などの観点から、何を協力し、何を協力してはいけないかという弁別を持ち、宇宙協力の全体的な枠組み構築と、個別領域、個別課題への対応を図る必要がある。